繋がる

発行者
新宿西戸山中学校
3年 工藤元

2018年7月2日、東京都港区で「東京2020 NIPPON フェスティバル記者会見」が実施され、同時にフェスティバルのマークも発表された。今回、私たちは新宿西戸山中学校生徒会役員の3名が記者としてこの会見に参加した。

そして私はこの東京オリンピック・パラリンピックの大会エンブレムや今回のフェスティバルのマークを制作した野老朝雄氏にインタビューを行った。

TOKYO 2020

TOKYO 2020 PARALYMPIC GAMES

東京2020 NIPPON フェスティバル

Q. これらのエンブレムやマークは何をテーマとして制作したのですか？

A. 「繋げること」をテーマに制作した。人々がこれらを見る時、見た人たちが自分たちでその中にストーリーを組み込むことができ、それらを周囲の人々と共有することで自分と関係の無い人々や外国の方々ともこれらを通して新たな関係を築くことができるのではないかと考えた。

Q. 外国の方々と交流することは重要なことなのでしょうか？

A. マンゲローブという森林を知っているだろうか。マンゲローブは様々な植物の生き物が調和して暮らす生態系を形作っている。多様性があるからこそ繁栄、共存することができる。これは非常に重要なことだ。だから私たちも外国の方々と交流し、繁栄、共存していくべきだと考える。

Q. これらのようなマークやエンブレムがあるのはなぜですか？

A. そういうものだから。また、これらのようなものが複数あると紛らわしくなってしまうのではないのでしょうか？人々はこれらを見ることにより、「あ、そういえばこんなものもあったな」と一目でオリンピックやパラリンピックの存在に気付いたり、思い出したりすることができる。つまり、これらは時代を記録するものである。しかし、言葉が分からない人や目が不自由な人も理解できるようにするためには、オリンピックとパラリンピックは特に区別する必要があるため、エンブレムを二つ制作した。

〈感想〉

今回のインタビューで、野老氏のマークやエンブレムに対する情熱、思いや考えなどを知ることができた。